

宮 整 大 翔

CONTENTS

平成20年度第1回通常総会

開催報告	1
会長挨拶	2
記念品贈呈・永年在籍会員表彰	3

会設立70周年報告・感謝会

開催報告	4
感謝状・記念品贈呈	5
本会の益々の発展を誓って！～会設立70周年を振り返り～	6

第3回宮城県「柔道整復学」構築学会

～宮城発、新時代の柔道整復師とは～	
開催報告	8
タイムテーブル	10
第3回宮城県「柔道整復学」構築学会を終えて	18

仙台青葉祭り 医療救護活動

活動報告	21
仙台青葉祭り 医療救護活動に参加して	22
第54回宮整ゴルフ愛好会コンペ	23
新入会員紹介	24
SVM活動報告	27
会務報告	28
風見鶏	29
編集後記	30

平成20年度 第1回通常総会

◆平成20年5月25日(日)
◆フォレスト仙台 ◆午前10時~



平成二十年度 第一回通常総会

平成二十年五月二十五日(日)、フォレスト仙台を会場に、定刻十時より松元浩二理事の司会で、中川利光副会長の開会の辞によつて平成二十年度第一回通常総会が開会されました。はじめに上泉昌隆会長より将来へ向けた力強い挨拶がありました。

続いて永年会員表彰、新入会員紹介へと進みました。その後、議長に佐々木裕忠会員、副議長に小松祐司会員、議事録署名人に玉井巖会員、田中俊一会員が選出され議事に入りました。

第一号議案から第三号議案までの議案すべてが承認され、次に執行部各担当より報告・連絡事項が述べられました。

最後に豊嶋良一副会長による閉会の辞で、滞りなく平成二十年度第一回通常総会が閉会しました。

(文責 広報部)

前号四頁の「生涯学習二十五単位、三年連續取得した認定該當者」の中に、中津川義広会員の氏名が記載されておりませんでした。
ここに訂正し、お詫び申し上げます。

平成二十年度
第一回通常総会

会長挨拶



社団法人
宮城県柔道整復師会
会長 上泉昌隆

平成二十年度第一回通常総会を開催するに当たり、当会が平成十九年度にどういったことをなし得たのか、それを基に私達がどうあるべきなのか、会員の皆様には大いに振り返つていただき、そして声を発していただきたいと思います。

新入会員の皆様におかれましては、数ある団体の中、当会を選んでいただきまして本当にありがとうございます。

皆様は、どうぞこれから柔整スクールや研修会、「柔道整復学」構築学会などで積極的に自己研鑽を積み生涯学習を充実させたり、またSVMによるボランティア活動によつて各地域で大いに貢献していただき、県民に柔道整復師を存分にPRしていくべきだと思います。

本総会後には今日までの宮城県柔道整復師会の七十年の歩みの報告がございますが、こういった機会に先人の残してくれたものを感じます。

つくりと見つめ直しながら、守るべきものは守り刷新すべきは新しいにしてゆくといった、時代にブレない感性とアイデイアで一致団結して、これからを乗り切つてゆこうではありませんか。

どんなに一生懸命、真面目にやつても大なり小なり課題は湧き上がつてくるのですが、それらを解決できるか否かは、会員の皆様一人一人にかかっていると期待しています。

私達の志を一つに結集すれば、必ずや業界はいい方向へ向かうと強く信じて止みません。

会員の皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げまして結びとさせていただきます。

本日は、実りある総会にしましよう！

◆柔道整復業務功労者

厚生労働大臣表彰

受賞

小関惺皓会員



左から 小関惺皓会員、上泉昌隆会長

◆三十年在籍会員

昭和五十二年入会
(入会月日順)

◆二十年在籍会員

昭和六十二年入会
(入会月日順)

新田要会員

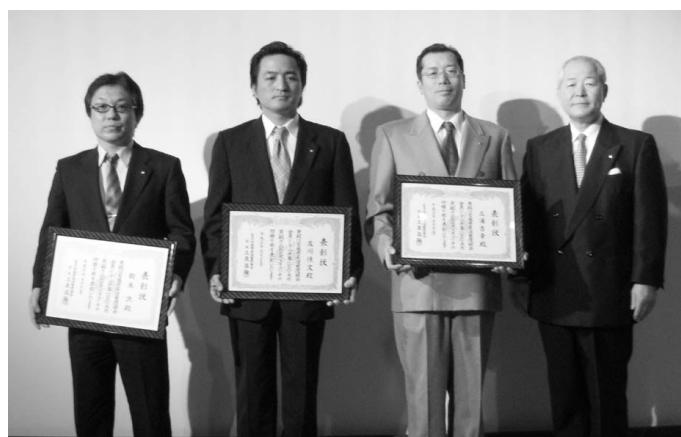
佐々木賢会員

藤村信彦会員

青木信会員
相澤三治会員



左から
青木信会員、藤村信彦会員、佐々木賢会員、上泉昌隆会長



左から
鈴木洸会員、及川佳文会員、三浦吉幸会員、上泉昌隆会長

米谷鉄典会員
及川佳文会員
鈴木洸会員
伊藤優会員



報告・感謝会の模様

会設立七十周年 報告・感謝会



・左から 松川いずみ会員、蔭山京子会員、上泉昌隆会長、柴田仁市郎名誉会長



・左から 高橋清次会員、寺澤豊志会員、白鳥寿一会員

平成二十年五月二十五日（日）、会設立七十周年を記念して、フォレスト仙台において総会に引き続き功績功労者の方々への感謝状、記念品の贈呈が行われ、場内は万感の拍手に包まれました。

その後、ホテルメトロポリタン仙台に会場を移し感謝会が開かれ、参加者一同旧交を温め合い、また当時のエピソードなども飛び出すなど有意義なひとときを過ごしました。

（文責 広報部）



[感謝状・記念品贈呈]



左から 牛木力夫 様、田母神茂 会員、大橋良雄 会員、及川靖 会員、
小関惺皓 会員、小松祐司 会員、岩佐和之 会員、上泉昌隆会長

●受贈者

・牛木力夫 様
・赤沼歴由 様
・田母神茂 会員
・大橋良雄 会員
・及川靖 会員
・小関惺皓 会員
・小松祐司 会員
・岩佐和之 会員
・上泉昌隆会長
（欠席）



大橋 良雄 会員

今改めて振り返ってみると、私の入会後に会事務所は七回程移転したが、その度ごとに会員数も増え、団体の規模が拡大していった。

しかしながら、まさか現在のようにまで当会が大きく発展しようとは、正直その頃は思ってもみなかった。

アットホームな規模だった頃とは異なり、団体が大きくなった分、若い会員とのコミュニケーションも取りにくくなってしまったが、機会あるごとに様々な経験を次代の会員にお伝えして、微力ながらもお力になりたい。



牛木 力夫 様

その当時、臨床整形外科医会からは、五十年後には柔整は自然消滅しているとの厳しいご指摘を受け、皆、必死に「ほねつぎ」を頑張ってきた。

その甲斐あって、五十年経った現在、柔整業界はこれほどまでに発展できたが、一方では「ほねつぎ」のできない若い柔道整復師が増加したことでも事実であり、大変、危惧している。

柔道整復の良い伝統は大いに活かして、将来へさらなる発展ができるよう期待したい。

最後に、本日はこのような場を設けていただき、心より感謝申し上げたい。

[記念品贈呈]

●故 小松 忠司 様 (後継者 小松祐司 会員)

●故 岩佐 之 様 (後継者 岩佐和之 会員)



本会の益々の発展を誓って! ～会設立七十周年を振り返り～

社団法人 宮城県柔道整復師会 涉外担当理事 佐々木 賢

昭和十四年十二月、
宮城県知事より認可を

頂き、本会の歴史は始
まりました。

全国的に、又、東北

地方でも組織作りが行
われていた昭和十年代、

宮城県でも県内の柔道
家の柔道整復師十四名

五名の先生方が集い、
昭和十四年六月二十六

日宮城県に申請を提出
し、その年の昭和十四
年十二月十八日に正式
に認可されました。

当時入会金
五円、年会費
二円であつた
そうです。

その喜びは
大きく、昭和
十五年一月に
で開業され
いた、初代会

長・塩谷先生宅で、十数名の先生方
が当時正装であつた羽織袴で臨み、

一人、大場先生は洋装で参加し、式
典・祝賀会の一切を進行していたと
元副会長の石田恵淳先生の回顧録に
記載してありました。

その頃は、社会の動きも不安で、
戦争突入、世の中の動きが不穏な時
期であり、先生方におかれましても
苦難な時代であつたと思います。

戦後も運営的にも厳しく、会長及

び当時の山川副会長が東北電力に勤
務しており、その治療室内での執務
及び出張費が本会の会務・会務費に
なつたそうです。

会務としては、保険療養費問題、

X線問題、そして柔道整復師の身分
の問題等で奔走しているようでした。

二代目会長は、柔道九段の高橋喜

三郎先生が、昭和二十四年に就任し、
昭和二十八年は、日本柔道整復師会
が、「社団」として、認可され、社会的
活動が大きく前進していきました。

三代目会長は、現小関惺暎監事の
父上が、昭和四十年より就任され、
事務所として、昭和五十四年よ

り仙台市花京院の大興ビル、昭和
五十七年より仙台市上杉の上杉マン
システィーンへ移転されました。

昭和四十五年四月十四日には、單
独法として、「柔道整復師法」として
制定され、又、身分法として社会に
対する責任を自覚していきました。

四代目会長は、現会員である岩佐
博征・岩佐和之先生の父上である岩
佐之先生が、昭和四十八年に就任し、
柔道整復師の学術及び固定術の確立
に尽力されました。

又、本会としての更なる飛躍であ
る「社団法人」としての認可は、昭和
五十二年十月二十四日正式許可を頂
き、「伯耆軒」にて盛大な祝賀会を開
催しました。

又、その当時の会員数は八十四名
で、仲間意識の強い時代であつたと
思っています。

更に、團結心の強さから、医師会
から信頼され選挙活動にも力を入れ
ていただきました。

事務所としては、昭和五十四年よ
り仙台市花京院の大興ビル、昭和
五十七年より仙台市上杉の上杉マン
システィーンへ移転されました。

ション、昭和六十年には、自前の土

地・建物取得に奔走し、仙台市扇町に広大な 五〇〇坪という土地を購入し、名実共に、自慢出来る「我が家」が完成しました。

ただ、大雨による水害が度々発生する所であり、新たな土地・建物を検討し、平成四年に仙台市上杉に、現会館が完成する運びとなりました。

五代目会長は、現会員である島谷俊美先生の父上である島谷一美先生が、昭和六十二年に就任されました。

柔道家の先生であるので、青少年健全育成を目指し、少年柔道大会が昭和五十七年より、盛大に現在まで継続しています。

昭和六十三年には、第一回日本接骨学会が宮城県民会館にて開催されました。

六代目会長は、相談役である洞口直先生が、平成七年に就任されました。

その頃から、公益法人としての活動、及び柔道整復師の存在をアピールする事業を盛んに企画運営し、全員一丸となつて行動・活動していく

きました。

それらが、現在も継続しているS VM活動、チャレンジドスポーツフェスティバル、「学の構築」学会であります。

又、入会金も、「〇円」としての大英断もあり、新入会員の申し込みも多くなり、飛躍的に会員の数も増加していました。

七代目会長は、名誉会長である柴田仁市郎先生が、平成十一年に就任され、公益事業活動も継承され、更なる発展を遂げていきました。

又、事務局体制にも力を入れ、保険業務電算化確立をはたされ、安心・安全な銀行振り込みになりました。

八代目会長は、現会長である上泉昌隆先生が、平成十五年に就任され、現在様々な問題に取り組んでおられます。

本会歴史の経過概要を記載させて頂きましたが、これから一〇〇年、一五〇年と継承されるであろう本会の発展の為には、この「古希」である節目の年に過去を振り返り、現在を直視し、未来を作つていかなければなりません。

今、我々は先達の財産で生活していると言つても過言ではありません。今、責任ある行動・活動を通して、将来に語り継がれる歴史を作つていかなければなりません。

日先の事にとらわれず、専門学校の増、柔整師数増の時代、資格の問題、制度の問題、療養費の問題等、全会員協力し、公益事業を通して、世の中に貢献を重ね、諸問題を解決していこうではありませんか！

それが我々会員社会的の責任であります！！

第3回宮城県 「柔道整復学」構築学会

～宮城発、新時代の柔道整復師とは～

約650名が参加

社団法人宮城県柔道整復師会
学術担当理事 松元 浩二

平成二十年六月十五日(日) 第三回宮城県「柔道整復学」構築学会が、仙台国際センターにおいて開催されました。

本学会は、柔道整復師業務を科学し、整理体系化しながら「柔道整復学」を構築することを目的としています。それは、私達の業務を「学問」として整理することで、これまで社会の中で存在を許された業種として当然の責務です。

さらに、社会より受けた恩恵(利益)を、地域貢献(社会貢献)として還元することになります。

専門集団が科学的証明を目指し、集団としての成熟や目的達成に向け努力することは、社会の利益となり、社団法人として存在する環境の一因を、担保することになると考えていいます。

また、中央(接骨医学会や日整)としてやるべき仕事と、地方でやるべき仕事、やれる事を考え、宮城として担当すべき問題や追跡可能と思われる課題に取り組み、「柔道整復学」の構築

や基礎資料の集積を目指しています。今回の学会の特色として、当会が「柔道整復学」を構築する立場で取り組むために設置しました、「柔道整復学構築研究委員会」の中間報告として、「柔整独自の方法論」をテーマに、「研究方法の確立」、「柔整独自」、「専門性」について、評価方法の現状把握を専門家集団として証明すると共に、柔整独自の用語を整理しながら専門用語としての位置付けを研究発表させていただきました。このことは、今後の会員発表における、医療人共通概念としての専門用語の基準となり、意義ある重要な研究発表であつたと思っています。

さらに、新たなる試みとして、一般参加型の市・県民講座を設け、「震災に備える応急処置と救命手当実技講習会」を開催しました。

これは、出来るだけ多くの一般の市・県民の皆様に受講していただき、いざという場面における第一次救護の重要性や、実際を想定してのトレーニングの場を提供すると共に、より

一層私達柔道整復師の治療を正しく認識、認知していただくことによつて治療選択肢が拡大し、安心を提供することができます。

結果、救急医療現場での混乱の回避や、医療機関における適切及び速やかな救急救命治療への棲み分けに繋がることをさらに期待し、当会

公益事業の一環とする、公益法人の社会的責任の履行として企画したものです。

特別講演では、東北大学大学院の森悦朗教授による、「知つておきたい認知症の知識」というテーマで、私達が治療、または介護の分野で遭遇しやすい「認知症」について学びました。特別講演では、テレビ等でおなじみの、辨野義己先生による「うんちが語る腸の老化」の講演をいただきました。

さらに、当学会会長の医事評論家水野肇先生による「学会会長講演」。

「治癒についてのシンポジウム」。

統一テーマによる「学生研究発表」。

日本超音波骨軟組織学会と日整会

員がコラボした、「超音波機器導入による柔道整復治療の有効性」について。

理学療法分科会では「画期的な合成樹脂副子による固定具の作成」について。

そして、医療機器展示会と多彩な内容で、参加頂いた会員、準会員、学生、県内・県外の柔道整復師、一般の市・県民の方に非常に高い評価を頂きまして、大盛会に終了することが出来ましたことをご報告いたします。



募 集

—意見・提言・趣味—

—考え方、思いつき、感想、提案、会員生の声—

あなたのご意見をお聞かせください。

- 意見を出さず、体制に追随してはいませんか。
 - 意見を言わず、諦めてはいませんか。宮城県柔道整復師会は、あなたの社団です。
 - 誰かがやるだろう、誰かが切り開いてくれると思っていませんか。
 - 一人の意見が、大きな舵取りになることもあります。
- あなたは、(社)宮城県柔道整復師会の会員です。
- どんなことでも結構です、あなたの意見、希望、疑問、情報、なんでもお知らせください。

○投稿 ○電話 ○FAX ○インタビューにうかがいます。

どんな方法でも結構です、一步前へ！

＊ 第3回宮城県「柔道整復学」構築学会 ＊

H20.6.15(日) 於 仙台国際センター
午前9時00分～午後4時30分

～ 宮城発、新時代の柔道整復師とは～

■ タイムテーブル

時 間	メイン大会場 (橘)	小会場 (白檀・2)	小会場 (白檀・1)
9時10分	開会式		
9時30分 10時30分	柔道応用講座 宮城県「柔道整復学」構築研究委員会 中間報告 学会副会長・医学博士 佐藤健先生 庄子 和良、酒井 賢一	10時00分～12時00分 (市・県民講座) 「震災に備える応急処置と 救命手当」実技講習会 主催 社団法人宮城県柔道整復師会 特定非営利活動法人 みやぎ災害救護ボランティアセンター 宮城県柔道連盟 講師 • 日本赤十字社宮城県支部 救急法指導員 庄子 和良 • 接骨院ボランティア宮城地域代表	医療機器等展示 11時00分～11時30分 理学療法分科会 「レナサームとユティール・ ハイラテによる固定法」 株式会社カナケン イワツキ株式会社 販売開発チーム 千葉浩二氏 仙台営業所 森口修喜氏
10時40分 11時40分	特別講演 I 「知っておきたい認知症の知識」 東北大学大学院医学系研究科 高次機能障害学分野教授 医学博士 森 悅朗 先生	12時20分～13時10分 学生研究発表 赤門鍼灸柔整専門学校 仙台接骨医療専門学校 東日本医療専門学校 仙台医健専門学校	
11時45分 12時15分	学会会長講演 当面の柔整の課題 学会会長・医事評論家 水野 肇先生		
12時15分 12時45分	宮城県「柔道整復学」構築学会総会 (宮城学術認定柔道整復師表彰)		
12時45分 13時00分	昼休み		
13時10分 14時20分	治癒についてのシンポジウム テーマ 「運動器疾患における治癒をどう 考えるか」 櫻田 裕 佐藤 勝一 新井田一史 夏坂 良成	13時30分～15時00分 柔整関連講座 「超音波による体幹の解剖」 中間法人日本超音波骨軟組織学会理事 鳴木 敏輝 先生 「四肢の超音波症例画像」 八千代整骨院院長 柿栖 秀則先生	
14時30分 16時00分	特別講演 II 「うんち」が語る腸の老化 ~大切な腸内環境をコントロール~ 独立行政法人 理化学研究所 バイオリソースセンター微生物材料開発室長 農学博士 辨野義己 先生	15時00分終了	
16時05分	閉会式		
16時30分	終了		

【第3回】宮城県「柔道整復学」構築学会

特別講演Ⅰ



「知りておきたい認知症の知識」

東北大学大学院医学系研究科高次機能障害学分野教授

医学博士 森 悅朗 先生

特別講演Ⅱ



「うんち」が語る腸の老化 ～大切な腸内環境をコントロール～

独立行政法人 理化学研究所
バイオリソースセンター微生物材料開発室長

農学博士 辨野 義己先生

学会会長講演



「当面の柔整の課題」

学会会長・医事評論家 水野 肇 先生

[第3回] 宮城県「柔道整復学」構築学会

柔整応用講座



「医療人共通概念としての 専門用語の検討」

宮城県「柔道整復学」構築学会 副会長

宮城県「柔道整復学」構築研究委員会 特別顧問

佐藤 捷



「疾患の重症度の評価に関する フィールドワーク」

宮城県「柔道整復学」構築研究委員会 委員長

庄子 和良



「超音波読影と急性・亜急性 の問題」

宮城県「柔道整復学」構築研究委員会 委員

酒井 賢一

[第3回] 宮城県「柔道整復学」構築学会

市・県民講座



「震災に備える応急処置と 救命手当」実技講習会

主催 社団法人宮城県柔道整復師会

特定非営利活動法人みやぎ災害救援ボランティアセンター
宮城県柔道連盟

講師

○社団法人宮城県柔道整復師会会員

○日本赤十字社宮城県支部

救急法指導員 庄子 和良

他 接骨院ボランティア宮城各地域代表



[第3回] 宮城県「柔道整復学」構築学会

治癒についてのシンポジウム

テーマ「運動器疾患における治癒をどう考えるか」



[シンポジスト] (敬称略)

夏坂 良成 … 指定居宅介護支援事業所ねむの木管理者
(柔道整復師・ケアマネージャー)
「WHOにおけるICFとケアプランの見直し」



櫻田 裕 … 社団法人宮城県柔道整復師会
保険担当理事
「柔道整復療養費制度における治癒の認識」



佐藤 勝一 … 社団法人宮城県柔道整復師会
渉外担当委員・会長諮問員
「自賠責患者様に対する治癒の判断」



新井田一吏 … 接骨院ボランティア宮城幹事長
「医療救護ボランティア現場で遭遇する
運動器疾患の特徴」



[進 行]

目時 誠 … 社団法人宮城県柔道整復師会
生涯学習担当理事

[第3回] 宮城県「柔道整復学」構築学会

学生研究発表

[座長]

- 亀井 啓 (赤門鍼灸柔整専門学校講師)
- 新井田 一吏 (東日本医療専門学校講師)
- 櫻田 裕 (仙台医健専門学校講師)
- 松川 いづみ (仙台接骨医療専門学校講師)

(統一テーマ)

「Qアングル(大腿脛骨角の補角)とそれに及ぼす要因について、実測して分析する。」



赤門鍼灸柔整専門学校



東日本医療専門学校



仙台医健専門学校

(自由研究)

「飲酒における基礎的状態の変化において予想される怪我への影響」

仙台接骨医療専門学校



[第3回] 宮城県「柔道整復学」構築学会

柔整関連講座

「超音波による体幹の解剖」

中間法人日本超音波骨軟組織学会理事
嶋木 敏輝 先生

「四肢の超音波症例画像」

八千代整骨院院長
柿栖 秀則 先生



理学療法分科会

「レナサームとユティール・ハイラテによる固定法」

株式会社カナケン
イワツキ株式会社

販売開発チーム 千葉 浩二氏
仙台営業所 森口 修喜氏

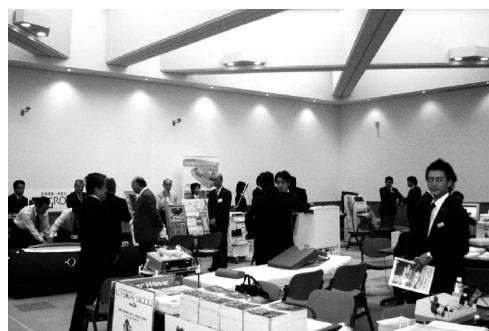


嶋木 敏輝 先生



柿栖 秀則 先生

医療機器等展示



[第3回] 宮城県「柔道整復学」構築学会

宮城県「柔道整復学」構築学会 総会



●左から

水野 肇 学会会长、佐藤 捷 学会副会長
松元 浩二 学会筆頭理事、目時 誠 学会理事、
小関 惺皓 学会監事、高橋 清次 学会監事



●左から 太田 作郎 議長、本木 利之 副議長

■メイン会場 (2F)

[司会] 岩佐 和之(写真右)

[進行] 大江 強 (写真左)



■サブ会場 (3F)

[司会] 齊藤 拓幸 (写真左)

[進行] 田中 俊一 (写真右)



第3回宮城県「柔道整復学」構築学会を終えて

学会副会長
宮城県柔道整復師会顧問
帝京大学教授

佐藤 捷

はじめに
当日すべてのセッションに出席し
得たわけではないので、記述を省略
した部分もあることをおことわりし
ておく。

表記の本学会は、今回から、社団の
公益事業の一つとして、しかも同時
に独立した組織として、平成十九年
六月承認された規定に基き、はじめ
てスカッとした形で開催された。

去る六月十五日(日)、仙台国際セ
ンターには、宮城・岩手内陸大地震
の翌日にも拘らず、他県からや、一般
市民や、学生らも多数参加され、計
約六五〇名と盛況であった。

向上心と関心のある方には勉学の
チャンスをシャットアウトしないと
いう社団の広い心構えは、一地方か
らも情報を発信しようとする積極的
姿勢のあらわれである。

プログラム

- ①今回の目玉は何といつても二つの「特別講演」であろう。
筆者が紹介の労をとった東北大学・

森悦朗教授による誠に今日的な認
知症の問題——認知症は病名で
もなく、老化現象でもない、脳症
状の一つである——への正確な理
解についてのお話、中川社団副会
長以下理事諸氏の推薦による、理
化学研究所・辨野義己博士による、
プロバイオティクスからみた腸内
環境・腸年齢のお話。中央におけ
る大規模学会の内容に決して引け
をとらない、実に有益な講演であ
つたと自負してよい。

医療人は、対患者、対スポーツ
マン、対老人場面で、常に世の動
向と最新の情報を仕入れつつ接せ
ねばならない。

今回のお話を諸氏は是非こやし
にしていただきたい。

- ②本学会では経験則を科学するため
に、研究委員会を立ち上げた。
中川社団副会長のおぜん立てのも
と、庄子委員長、酒井委員、及び
佐藤が顧問としてプロジェクトを
進めてきた。

今回は、当面委員会で要検討と
考えたテーマ(問題)の一部を「中間
報告」したが、もとよりこれで終了
するものではない。

イ、重症度の判断に関する科学的
臨床的・社会調査法(『デルファ
イ法』)による第一・二次の結
果(担当庄子・佐藤)は、会員諸
氏の現場的判断を共有化する
ためのデータとしては、おそ
らく業界で前例のない貴重な
ものである。

ロ、物体と、外力による応力集中
の理論(担当酒井)は、生体力
学的な立場から、超音波診断
検査の基礎になる構造的概念を
諸氏に知つていただく良いチ
ヤンスになつたはずである。

ハ、医療人の共通言語の問題

(担当佐藤)は諸学会で検討さ
れてきたテーマであるが、一
昨年の本学会での特別講演の

意を受けて、柔道整復術が学
になるかを左右する大きな問
題と認識し、取り組みだした
ものである。

本来一地方のレベルで扱う
べきものではない。

しかし、“宮城発”でやらな
いと、どんどん柔整業界は医
療界の中で孤立してしまって
あろうと筆者は認識し、あえて
取り組んでみたところである。

一六種類の書、雑誌、事典
等に目を通し分類してみたと
ころ、次の三点に疑問が集約
された。

(a) 他の医学医療分野には
通じると思えない勝手
な造語が多い。

(例) 減捻、耐力。
(b) ほとんど独自の、かつ
共通した方法論をもつ
てゐると思われない分
野があること。

(例) 測定・評価の分野、
診断法の分野。

しかし、県内には逆
に、独自に開発された
すばらしい技法もある。

(例) 岩佐式副子。

(c) 医学の他の分野でも使
つているが、その概念
と異なる使い方を歴史
的にしていると思われ
るもの。

(例) 亜急性、捻挫、挫傷。

③水野学会長の「会長講演」の結論は、
柔道整復師界から国會議員を出す
ことが必要であるとのことであつた。

④「学生研究発表」については、糸余
曲折はあつたが、四校の学生・教
員が眞面目に取り組んだ跡がみえ
て、出席していた学生達に、実験や
プレゼンテーションのあり方につ
いて刺激になつたであろう。

⑤出席しかねたが、「治癒についての
シンポジウム」、地震翌日の救命講
習「市県民講座」、「超音波画像分析」、

「新固定材料」のセッションも、それぞれ関心のある方々にとつては有益であつたに違いない。

構成および問題と思われる点

①一日でこなすために三会場に分散

したが、もし、同时刻にどちらも見聞したい方々にとつては、もつたいないことと思われた。

サブテーマ「宮城発、新時代の柔道整復師とは」からみれば、シンポジウムがメインになり、一日で完結する分量となるべきであつたかもしぬれない。

しかし、このテーマ「治癒についてのシンポジウム」は重すぎた。この点に関しては、メインとサブが逆転し焦点がぼけて、てんこ盛り型になつたきらいはある。

逆にみれば、とてもローカルな学会とは思えない豊富で広範な内容であつたともいえる。

②学生の研究表について

このプログラムをどうすべきかに

ついては、企画の段階から種々再検討してもいいのではないかと思われる。

一方でそれは、一般会員の方々の研究発表ともリンクするであろう。チャンスのなかつた今回はとくに。

まとめ

一般臨床家にとつて、学会は必ずしも必要不可欠な要素ではない。

しかし、時流におくれることなく、日々の診療にもその専門性を正当に反映させるためには、ローカルな研修の場こそ必要な情報源である。

今年の本学会が一昨年のそれより改善されたことは間違いないであろうが、会員諸氏や聴講にこられた各位に、宮城発のインパクトを何らか与え得たとすれば望ましいことと考える。

今後検討すべきことの一つに、「学

術認定柔道整復師」になられた方々

や、本学会に出席された方々に、良い意味での差別化（優遇策）を計る

感謝申し上げる。

関係各位のご協力に副会長として



仙台青葉祭り

医療救護活動

社団法人
宮城県柔道整復師会
S·V·M担当理事、

大坂 武史

そんな中で地域の先生方による救護ボランティア活動が出来る事は接骨院の公益活動とともに、本当に地域に密着できる良い機会ではないかと思われます。

参加者は、お祭りの為に数ヶ月前から準備や練習、本番を迎える頃にはカラダはボロボロ！当日は朝から

去る、五月十七日（土）十八日（日）

の五月晴れの中、第二十四回仙台青葉まつりが盛大に開催され、今年で二回目となるS·V·M地域会員による

救護ボランティア活動が行われました。

本大会は伊達政宗公の命日に元々青葉神社で行われていたもので、四年前より五月の第三土・日に仙台市の市民参加型のお祭りとして開催されるようになりました。

今年もすずめ踊りをはじめ山鉾巡業、武者行列、芸能祭と約六〇〇〇人！毎年参加者が増え、県内外からの観光客も両日あわせ約九〇万人と一キロ四方に大勢の方が集まります。



いつ怪我してもおかしくない状況？
楽しんだ後には身も心もグッタリ！
私達が手助けできる

ことは山ほどあります。

取っ掛かりが遅く急な募集で心配でしたが、仙台市地域から二十名の会員の先生方にお集まりいただき、打ち合わせと説明会を開き、さらに今年は私達のフットワークが必要とされる場所に移動し大事に至らず無

事活動を終えることができました。

これも協力していただいた会員の先生方、関係者方に感謝！感謝！です。

S·V·M地域活動は単年に止まらず何事がなくても継続する事が一番大切なことだと思っています。

それが地域の皆様に提供できる私達の本業ボランティアであり、そこから求められる接骨院、応えられる接骨院が始まるのではないでしようか！

今後ともまずは一步、そして大きなスクラムが組めるよう協力し合っていきたいと思います。



仙台青葉祭り

医療救護活動に 参加して

長町南整骨院
佐々木 俊夫

平成二十年五月十八日に、快晴の中、青葉区と太白区の合同地域活動「青葉祭り医療救護活動」に微力ながら参加させて頂きました。

私は、去年に引き続き、二回目の参加になりましたが、初参加となる前回は、どうしたらいいのか、手探りでの活動ではありました。

今回は、東二番町小学校のグラウンド、メディアテーク、市民広場内、タワービル前と去年より踊り手さんに近い場所に医療救護として日本赤十字のスタッフと共にテントを張らせて頂き、前日から、踊り続けていた雀踊りの踊り手さん達のパワーに圧倒されながらも、昨年よりも充実

した活動ができたと思いますが、まだ二回目ということもあり、踊り手さんも、自分たちも、どうしていいか解らないところがありました。この反省点を来年に生かし、より充実した医療救護活動にして、柔整師をもつともと理解していただけるようにしたいと思います。

恥ずかしながら、私は仙台に住んで居ながらも、青葉祭りというものを見たことも無く、名前しか知らず、どういうお祭りかということすら知らずに居りました。仙台の街中で、これだけたくさん踊り手さん、お囃子の方、それとそれを見に来る観客の方たちが参加し、活気のあるお祭りだというのは、去年と今年、参加するまでぜんぜん知りませんでした。

そんな中で、接骨院ボランティア宮城の活動を通して、そのお祭りの中に参加し、柔整師が無くてはならない存在になれる様、青葉区、太白区の会員の先生方と頑張っていきたいと考えます。

最後に、青葉区、太白区の地域活動

として先頭に立つて動いていただいた齊藤拓幸地域代表と渡邊一治地域代表はじめ、参加された先生方と準会員の先生方、協賛を頂いた業者の方々の協力無くして今回の活動は、成功しなかつたと思います。

この場を借りて感謝を申し上げます。



第五十四回

宮整ゴルフ 愛好会コンペ

宮整ゴルフ愛好会

幹事 佐々木俊夫

平成二十年七月二十一日(海の日)、
富谷カントリークラブに於いて、第
五十四回宮整ゴルフ愛好会コンペが
開催されました。

当初六月二十二日に予定していた
本ゴルフコンペですが、六月十四日
に発生しました「岩手・宮城内陸地
震」のS V M災害医療ボランティア活
動のため、延期しての開催となりま
した。

急な開催により、少數の参加とな
りましたが、あすか接骨院から女性
従業員の伊藤マージィさんにもご参
加頂き、男性参加者の多い中、花を
添えていただきました。

さて、今回のコンペは、前回から
導入しているハンディキャップ方式
により、稀に見る接戦で、僅差によ
り順位が決定いたしました。

気になる結果は、大坂武史会員が
初優勝を飾り、同ネットではありま
したが、惜しくもハンディキャップ
の差で佐々木聰会員が準優勝に輝き
ました。

3位には二打差で小野木馨会員が
入賞し、ベストグロス賞には、前回
優勝の高橋邦彦会員が輝きました。

表彰式後は、原欣信会員より、ゴ
ルフのマナーとルールを教えて頂き、
ゴルフを通じての紳士淑女のマナー
とエチケットを学び、とても有意義
なゴルフ愛好会コンペになりました。

この宮整ゴルフ愛好会コンペは、
スコアだけを競い合うだけではなく、
会員同士の親睦を図ることを目的と
しております。

堅苦しく考えず、緑の中で、会員

同士が笑顔でコミュニケーションを
図ることで、日常の施術や経営に大き
なヒントが得られるかもしれません。

これからゴルフを始めようとお考
えの皆様、ゴルフ愛好家の皆様、次
回の宮整ゴルフ愛好会コンペに多数
のご参加を心待ちしております。

参加者（五十音順）

飛鳥 正宏会員 伊藤マージィ様

大坂 武史会員 小野木 馨会員

佐々木 聰会員 佐々木俊夫会員

高橋 邦彦会員 原 欣信会員



新入会員紹介

①生年月日 ②院名 ③開設年月日 ④出身校 ⑤趣味・特技 ⑥理念・一言
※新入会員の方々の内、写真を提供いただいた会員の方より順に掲載させていただいております。



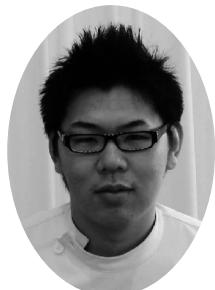
いわ さき しん た ろう
岩崎 真太郎

- ① S 58. 11. 21
② あさひがおか整骨院
仙台市青葉区旭ヶ丘3丁目26-21-201
③ H 20. 1. 9
④ 赤門鍼灸柔整専門学校
⑤ スポーツ観戦
⑥ 丁寧な施術・親切な対応
常に向上心を持って精進していきます。



か とう じゅんた ろう
加藤 淳太朗

- ① S 56. 10. 20
② もみの木整骨院
栗原市志波姫新熊谷11 イオンSUC栗原志波姫店1F
③ H 20. 2. 14
④ 仙台接骨医療専門学校
⑤ 献血
⑥ いつでも笑いを一生懸命頑張ります。





はやさか たけし

早坂 健

- ① S51. 8. 15
- ② こおりやま接骨院
仙台市太白区郡山7丁目6-12
- ③ H20. 3. 23
- ④ 赤門鍼灸柔整専門学校
- ⑤ スノーボード 特技早寝早起き
- ⑥ 「共に学び、感謝し、感動して社会に貢献することを誓う」理念を通して私達業界の発展と国民の皆様方への認知度を広げていくことに努めて行きたいと思います。
ご指導の程、何卒宜しくお願ひ申し上げます。



みつもり てつじ

三森 哲司

- ① S53. 11. 1
- ② あけの平鍼灸整骨院
黒川郡富谷町あけの平2丁目3-8
- ③ H20. 4. 1
- ④ 赤門鍼灸柔整専門学校
- ⑤ スポーツ観戦
- ⑥ 本気
今後ともご指導の程宜しくお願ひ致します。



こん たか ゆき

今 貴幸

- ① S46. 12. 16
- ② 岩切接骨院
仙台市宮城野区岩切洞ノ口東4-1
- ③ H20. 4. 1
- ④ 仙台接骨医療専門学校
- ⑤ サーフィン
- ⑥ 患者様の幸せは、自分の幸せという言葉をもっとうに、毎日一人でも多くの患者様が楽になりました、と笑顔で帰って頂けるように努めております。何も分からぬ未熟者ですが、地域の皆様に、接骨院の素晴らしいを伝えて行けるように頑張ります。会の諸先輩方を見本にさせて頂き、頑張って行きたいと思いますので、ご指導の程宜しくお願ひ致します。





はつとり じゅん

服部 純

- ① S53. 8. 30
- ② ボディバランス整骨院
仙台市泉区市名坂字町 7-3
- ③ H20. 4. 1
- ④ 赤門鍼灸柔整専門学校
- ⑤ サッカー
- ⑥ 年中夢求

今後ともご指導の程宜しくお願い致します。



おおば ようへい

大場洋平

- ① S54. 3. 5
- ② 仁接骨院 げば
塩釜市錦町13-10
- ③ H20. 4. 1
- ④ 仙台接骨医療専門学校
- ⑤ 釣り・食べ歩き
- ⑥ 一期一会

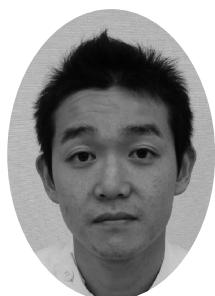
一生懸命 がんばります。
これからよろしくお願ひします。



いとう りょうた

伊藤 良太

- ① S54. 9. 1
- ② 白石接骨院 いとう
白石市旭町 2-2-7
- ③ H20. 4. 14
- ④ 赤門鍼灸柔整専門学校
- ⑤ サッカー・フットサル
- ⑥ いつも笑顔で患者さんに接し、地域に根づいた接骨院を目指に日々がんばります。
ご指導よろしくお願ひします。



SVM活動報告 (平成20年5月～平成20年7月分)

依頼団体名	日 時	場 所	活動者
宮城県障害者スポーツ協会	5.3	仙台市新田東総合運動場 宮城野体育館	大槻英之
石巻柔道協会	5.3	石巻市総合体育館	木村清徳・飯野勝幸・高橋昭則
スペシャルオリンピックス日本・宮城	5.11	宮城学院女子大学	大槻英之
スペシャルオリンピックス日本・宮城	5.11	落合市民センター	三浦吉幸・横浜章智
宮城県障害者スポーツ協会	5/17～18	シェルコムせんだい	小野郁生
仙台青葉まつり協賛会事務局	5/17～18	メディアテーク・東二番丁小学校・市民広場・タワービル前	
仙台泉ヶ岳アウトドアフェスティバル実行委員会	5.18	仙台市泉ヶ岳スキー場	吉田圭悟・長岡泰彦
気仙沼市立白山小学校地区民合同運動会実行委員会	5.18	気仙沼市立白山小学校	中川徳之
気仙沼市立浦島小学校	5.18	気仙沼市立浦島小学校	中川久秀
スペシャルオリンピックス日本・宮城	5.18	宮城学院女子大学	大槻英之
スペシャルオリンピックス日本・宮城	5.18	折立市民センター	三浦吉幸・横浜章智
宮城県柔道連盟	5.24	宮城県武道館	高橋清次
スペシャルオリンピックス日本・宮城	5.25	落合市民センター	横浜章智
ベガルタ仙台	5.29	戦災復興記念館	小島幸喜
仙台市障害者スポーツ協会	6.1	宮城総合運動公園 グランディ21	山本裕太郎・附田貴史
石巻地区中体連柔道競技	6.1	女川町総合体育館	木村清徳・飯野勝幸
スペシャルオリンピックス日本・宮城	6.1	富谷町まるまつアリーナ	大槻英之
スペシャルオリンピックス日本・宮城	6.1	大沢市民センター	横浜章智
ベガルタ仙台	6.4	柏木市民センター	工藤健人
名取市中学校体育連盟	6/7～8	尚絅学院大学	太田作郎
名取市中学校体育連盟	6.8	名取第一中学校	三上洋志・附田貴史
名取市中学校体育連盟	6.8	名取市体育館	丹代圭亮
名取市中学校体育連盟	6.8	名取市民球場	日下令太
名取市中学校体育連盟	6.8	名取第二中学校	山本裕太郎
スペシャルオリンピックス日本・宮城	6.8	宮城学院女子大学	大槻英之
宮城県高等学校体育連盟柔道専門部	6/7～9	女川町総合体育館	飯野勝幸・高橋昭則
気仙沼市	6.8	気仙沼市新浜町	中川久秀・中川徳之・千葉昌彦
ベガルタ仙台	6.10	人来田コミュニティセンター	工藤健人
岩沼市体育協会	6.15	岩沼市民体育センター	小林紀彦
仙台市中体連柔道部会	6.16	宮城県武道館	高橋清次
宮城県ミニバスケットボール連盟 女川バスケットボール協会	6.21	女川町総合体育館	木川幸夫・木川幸一
スペシャルオリンピックス日本・宮城	6.22	落合市民センター	横浜章智
宮城県柔道連盟	6.22	仙台大学	高橋清次
山元町柔道スポーツ少年団	6.22	山元町立山下中学校	大宮正照・目黒喜浩
スペシャルオリンピックス日本・宮城	6.22	宮城大学	大槻英之
宮城県相撲連盟	6.22	宮城野原相撲場	飯野勝幸・高橋昭則
ベガルタ仙台	6.25	登米市南方町南方公民館	中島正彦
宮城県柔道連盟	6.29	宮城県武道館	高橋清次
気仙沼市P T A連合会	6.29	気仙沼市総合体育館	中川久秀
スペシャルオリンピックス日本・宮城	6.29	落合市民センター	三浦吉幸
ベガルタ仙台	7.1	仙台市福祉プラザ	工藤健人
ベガルタ仙台	7.3	牡鹿公民館	木川幸夫
気仙沼柔道協会	7.6	気仙沼高等学校	中川久秀
豊里柔道クラブ	7.6	登米町総合体育館	寺澤豊志・藤林広明・鈴木直行
名取市立第二中学校父母教師会	7.6	名取市立第二中学校	小林紀彦
宮城県防具付空手道連盟	7.6	気仙沼市総合体育館	中川徳之
スペシャルオリンピックス日本・宮城	7.6	宮城大学	大槻英之
スペシャルオリンピックス日本・宮城	7.13	宮城大学	大槻英之
スペシャルオリンピックス日本・宮城	7.13	落合市民センター	横浜章智
ベガルタ仙台	7.16	石巻市水押集会場	木村清徳
名取市卓球協会	7.20	名取市民体育館	平田和
塩竈剣道連盟	7.20	尚武殿一森山道場	新井谷哲郎
塩釜テニス協会	7.20	宮城県総合運動公園 グランディ21	太平和幸
気仙沼市教育委員会唐桑教育センター	7.20	気仙沼市唐桑体育館	中川徳之
宮城県中学校体育連盟柔道専門部	7/20～23	宮城県武道館	高橋清次
ベガルタ仙台	7.23	南方総合運動場	松本光弘
ベガルタ仙台	7.24	石名坂交流センター	小島幸喜
気仙沼リトルシニア野球協会	7/26～27	気仙沼市営球場	中川久秀
なかのF C	7.26	仙台市立中野栄中学校	佐藤晃敏・大谷徳博
スペシャルオリンピックス日本・宮城	7.27	落合市民センター	横浜章智
スペシャルオリンピックス日本・宮城	7.27	勝山スケート場	大槻英之

会 務 報 告

平成20年4月～平成20年7月

4月		行 事	5月		行 事	6月		行 事	7月		行 事
1	火	盛岡医専入学式	1	木		1	日	"県・市障害者スポーツ大会 全国介護保険担当者会議"	1	火	
2	水		2	金	"恵比寿総業打合せ学術部会"	2	月		2	水	
3	木		3	土		3	火		3	木	
4	金	顧問桜井議員懇談会	4	日		4	水	三役会	4	金	
5	土	"保険勉強会 新入会員面接 柔整カール(必修)"	5	月	申請書受付業務	5	木	月初送金日	5	土	"申請書受付業務 岡山県柔整30周年記念式典"
6	日	"申請書締切 健生入学式"	6	火	"申請書受付業務 申請書締切"	6	金	"申請書締切 学会(シンポジウム)打合せ"	6	日	申請書締切・保険勉強会
7	月	月初送金日	7	水	月初送金・保険勉強会	7	土	"保険勉強会 構築研究委員会"	7	月	"保険勉強会13:30 月初送金日"
8	火		8	木	岩手県事務局訪問	8	日	日整通常総会	8	火	
9	水		9	金	"秋田打合・学会誌打合 生保・福祉事務所訪問"	9	月		9	水	
10	木	柔専入学式	10	土	"秋田県訪問 柔整カール<一般講座>"	10	火		10	木	柔整カール(整形外科手術見学)
11	金		11	日		11	水		11	金	
12	土	柔整カール(一般・講座4)	12	月	会計監査	12	木		12	土	
13	日		13	火	青葉まつり準備会議	13	金		13	日	
14	月	新入会員面接	14	水	"三役会 保険部会 学会打合せ"	14	土		14	月	
15	火	仙台医健入学式	15	木	県保険審査会	15	日	3回「柔道整復学」学会	15	火	柔整カール(整形外科手術見学)
16	水	広報部会	16	金	"三井住友海上打合せ 学会誌校正"	16	月		16	水	県保険審査会
17	木	県保険審査会	17	土		17	火	歴代会長会長会	17	木	
18	金	新入会員面接	18	日	大阪ブロック学会	18	水	県保険審査会	18	金	
19	土	学術認定委員会	19	月	保険勉強会(独立会員)	19	木	"柔整カール(手術見学) SVM救護活動開始"	19	土	
20	日		20	火	介護保険委員会・70周年打合せ	20	金		20	日	
21	月	佐々木税理士決算精査	21	水	"独立会員面接 学会誌打合せ 学会シンポジウム打合"	21	土		21	月	
22	火	監査会	22	木		22	日		22	火	
23	水		23	金	広報部会	23	月		23	水	
24	木	"三役会・理事会 監査講評 学会会議"	24	土	"新潟県創立80周年 柔道委員会"	24	火	"柔整カール(手術見学) 新入会員面接"	24	木	監査会・理事会
25	金	事業部会	25	日	"H20年度1回通常総会 設立70年報告・感謝会"	25	水		25	金	
26	土		26	月	"次年度総会仮押(24日) みやぎボランティア理事会"	26	木		26	土	愛知議員マーバーティin松島水族館
27	日	少年柔道大会in女川	27	火	構築研究委員会	27	金		27	日	接骨医学会研修会in大阪柔整師会館
28	月	"学会(シンポジウム) 人選会"	28	水	"広域連合東会 保険部会"	28	土	保険審査委員情報交換会	28	月	
29	火		29	木	厚生年金病院訪問	29	日	第1回「柔整塾」『匠の技』in青森	29	火	
30	水	月末送金・連絡袋発送	30	金	"月末送金・連絡袋発送 師先生叙勲受章祝会"	30	月	月末送金・連絡袋発送	30	水	
			31	土	学会実行委員責任者会議				31	木	月末送金・連絡袋発送

＊＊＊風見鶏＊＊＊

夏も終わり過ごしやすい季節となつてきました。

平成二十年度も半分を過ぎ、今年の活動も結果として見通しが立ってきたでしょうか。

さて今回は総会の位置付けや意見について、考えてみました。

今回は、総会の予算と決算について、あらためて考えてみたいと思います。

前回も紹介したことですが、本会の予算総会は年度末(三月頃)に招集しています。予算ですから、次年度の活動方針などを決定し、それに対しても予算が決まります。

活動方針は前年からの継続したものや、新たに計画するものなど様々です。

時代の流れや立場、趨勢などにより変化していくものと思います。

また方針は執行部が理事会など

で大筋を決め、提案するのが普通です。

ですから、理事会で総会の数ヶ月

前まで議題に並んでいた活動も、その後の会議で打ち切りになつてしま

えば、総会で提案はされず、見逃されてしまうことになることもあります。

この時気づいている場合は問題ないのですが、気づかずに過ぎてしまい

決定事項となつてしまふこともあります。

一般的には、年一回の総会で前年度の決算をおこない、次年度の予算を決める訳ですから、一つの資料に對称の形となります。

活動の流れとして、継続しているか打切なのか、また拡大の方向のか縮小のかが、分かりやすい形となっています。

しかし本会は二回開催ですから、私達も注意して資料を見る必要があります。

また予算については、執行部の方を知ることができます。何を重要と感じ、その進め方をどうするか。

さて、今年度も半分が過ぎました。定期的に総会時期がやつてきます。質問や意見など活発な発言と審議を期待しています。

どういう体質体系とするかなど、伺ることができます。

これに対して決算は活動の実績などを示しています。

中身は勿論ですが、「力」の入れ様がよくわかると思います。

また活発な部分や頻繁に動きの有る部所なども見えてきます。

総会について、あれこれ考えましたが、総会は会運営の最高決議機関です。

ただ参加する、漫然と流されるなど、執行部に任せきりでは、活性化は勿論、発展も出来なくなってしまいます。

発展しない、変化しない、進化しないそして勢いがない組織などは、いずれ終息し消滅する方向です。くれぐれも緩慢な態度で会議に臨むことが無い様、気を引き締めていきたいものです。

さて、今年度も半分が過ぎました。定期的に総会時期がやつてきます。質問や意見など活発な発言と審議を期待しています。

編／集／後／記

今回は、本年五月から七月までの当会行事や事業について掲載させていたしました。

中でも、大好評を博しました第三回

宮城県「柔道整復学」構築学会には、多

くの紙面を費やして開催の全体像を表現させていただきましたので、今一度、振り返つていただきたり、また参加できなかつた会員の方につきましては、いかに有意義なものだつたのかを知つていただき、次回の参加へ向けて心のスタンバイをお願いいたします。

奇しくも学会前日の六月十四日には、私達は岩手・宮城内陸大地震に見舞われました。

当会ではこれまでの経験を生かし、速やかに医療救護ボランティアチームを結成し、被災地でのボランティア活動を展開いたしましたので、そのご報告記事も掲載される予定でした。

しかし、これまでの一連の取り組みについて、ただ単にその時だけの報告記事で良いのか?といった編集部の思惑から、この記事につきましては、次号で特集を組ませていただきます。と言ふのも、当会が現在まで積極的に推進してきているSVM活動やチャレンジスポーツフェスティバルなど

は、ほぼ十年を経過しておりますので、宮整広報ではそういったことを踏まえ、この辺りで活動や開催の報告ばかりではなく、これまでの成果や現状の問題点、今後への展望などをまとめゆく時期であろうと考えているからです。

広報紙を通じ、私達の足跡をしっかりと形にすることで、はじめてこれまでの取り組みが社会から評価され、将来へとつながつてゆくものと確信しています。

さて、編集部一同、いつでも熱意を持つて広報誌作りに没頭しているのですが、毎回足りないのが「時間!」で、毎回出でしまうのが「訂正!!」です。

時として、氏名の間違いなど、当事者の方には大変失礼をしてしまい、申し訳ございません。

今後も十分、気を付けてゆきますので、どうぞ寛容なお気持ちで受け止めさせていただければ幸いです。

本号が発刊されると、早いもので残暑、そして秋彼岸の時期です。
夏のお疲れが顔を出してきて、体調を崩しやすい時期でもありますので、どうぞおたがい健康に留意して、診療に励みましょう。

(宮整広報
編集部)

社団法人 宮城県柔道整復師会

宮 整 広 報 No.83

平成20年8月31日

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉二丁目9番8号

TEL 022(262)9181 FAX 022(262)4181

Home Page <http://www.mjs.or.jp>

発行者 会長 上泉昌隆

編 集 広報部担当理事 目時 誠

広報Working Group主任 庄子和良

委 員 平山 修 千葉勝弘 稲葉泰三

印刷所 (資)芳賀美術印刷

〒980-0003

宮城県仙台市青葉区小田原七丁目7番13号

TEL 022(222)4225(代) FAX 022(222)4228